

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 学校教育目標や学校経営の方針の設定状況				
① 学校経営の充実と創意と活力のある学校づくり ・学校教育目標・方針等の共通理解 ・創意ある教育課程の編成 ・体験活動を重視した活力ある教育活動の実施	A	○校長先生から、目指す学校像(キャッチフレーズ)が出されたのがよかった。 ○年度始めに確認・見直しの時間をとったので、新体制で共通理解を図ることができた。 ○32年度の学習指導要領完全実施に向け、さらに行事などの検討が必要と感じる。	☆行事について、必要性の有無、時期、対象者等を検討し、精選する。 ☆キャッチフレーズの大きな掲示が教室にあると、さらに意識付けになる。	○キャッチフレーズがとてもよかったと思う。
② 教職員の能力・資質の向上 ・校内の研修体制と研修内容の改善 ・教職員評価制度を活かした能力・資質の向上	A	○計画通り充実した研修が行われた。 ○よい授業、子どもの関心を高める授業などを見る機会が減っている。	☆授業研究会の時期に気をつける。	
II 保護者や地域との連携に努める				
① <u>HPや学校だより等を通して、保護者や地域に向け、きめ細かに情報提供し開かれた学校づくり</u> ・保護者・地域への情報発信と学校公開	A	○ホームページがよく更新され、学校の様子が地域に発信されている。 ○HPを更新できる職員が少ないため、情報発信の数が少ないのではないかと。 ○学校だよりや学年だより等が月1回出されていることは良い。 ○2学期後半は、順調にホームページの更新がされ、1学期よりもホームページUP回数が増えたが、まだ十分とはいえない。	☆ホームページ作成研修を行い、担任や各係からも情報発信ができるようにする。 ☆ホームページ作成のマニュアルを示す。	○行事ごとにその内容についてわかりやすく発信されている。 ○HPを見ると学校の様子がわかるのでいいと思う。 ○ホームページは昨年同様楽しみにしている家族が多いと思うので、こまめに更新してもらえるとうれしい。子どもたちに教えてあげると喜ぶので、励みになると思う。
② 信頼され・地域とともにある学校づくりの推進 ・地域素材・地域人材の積極的活用 ・学力アップ・ノーメディア週間の活性化	A	○地域連携コーディネーターを中心に、地域と連携を図り、地域のボランティアを活用することができた。 ○田植え、稲刈り、畑(野菜)づくりなどで地域人材の活用ができた。田畑関係における人材活用はとて有り難い。 ○学力アップ週間では、ほとんど全員が1日の目標時間をクリアできた。 ○学力アップ・ノーメディア週間は、年5回でいいと思うが、保護者の目鑑やコメントがないなど、家庭での取り組みには大きな差がある。 ○ノーメディア週間は、マンネリ化・形骸化しつつあると感じる。児童個人、家庭によって差があるので、マンネリ化しないような工夫が必要だと思う。	☆よい取り組み例を紹介する。できる範囲で個別に指導する。 ☆記録カードの改善(家の人からのコメント欄・ノーメディアの言葉を入れる。)	○ノーメディアができる日と時間を明確にし、記録していくといいと思う。 ○引き続き、地域の方との交流を活性化してほしい。地域には、どんな“ワザ”を持った人がいるのか、学校は地域に何を期待するのかを整理し、よいマッチングができるといい。
3 こ・小・中連携による協力体制の充実 ・那珂川町「ハッピー・スロープ・プラン」の推進 ・小1プロブレム・中1ギャップの解消	B	○個人的には言葉自体もあまり浸透していないと感じるが、「連携」「接続」を意識していきたいと思う。	☆「ハッピー・スロープ・プラン」が分かる資料を配付する。	○本事業が形式的にならぬよう、常日頃からの連携協力の強化を図ってほしい。
III 確かな学力の育成に努める				
① 個に応じた指導方法と評価の工夫・改善 ・「考えて分かる楽しい授業」の実践 ・学校課題研修の充実 ・ICTの効果的な活用	B	○学校課題が計画的に実施され、研究授業を中心に研究を深めることができた。 ○学校課題について、授業を通して研修するような形で進んでいるが、普通の授業で生かせるような方法なども学力推進リーダーに入ってもらって進めていってはどうか。 ○電子黒板が各教室にあり、活用しやすい状況にある。主要教科を中心に電子黒板(主にデジタル教科書)を活用した授業を展開することができた。 ○校務システムが徐々に活用されてきている。	☆研究授業後の話し合いの記録を全職員に配付する。 ☆上学年、下学年ブロックで、例えば上学年ブロックのみが研究授業を実施する場合の事前研究、事後研究は、上学年ブロックの先生以外にも参加したい方は参加してもよいということにする。 ☆学校課題に関して、来年度は研究テーマ(副主題)を絞る。	○多くの子どもが失敗するプログラムがあってもいいのではないかと。失敗から学ぶことは非常に多い。“失敗してもいい”という雰囲気は、うまくかみ合えば活発な議論や行動につながるのではないかと。
2 基礎的基本的な内容の定着を図る家庭学習の推進 ・家庭と連携した家庭学習習慣の育成 ・「家庭学習の約束」の啓発とノーメディアデーの推進	B	○学力アップ・ノーメディア週間として全校体制で指導がされている。 ○那珂川スクールをほぼ計画通り実施できた。 ○家庭学習の習慣が身につけていない児童がいる。家庭によって意識の差が大きくなってきた気がする。	☆学力アップ・ノーメディア週間ではなく、週1のノーメディアの約束(月曜はノーメディアデーや、食事の時はテレビを消すなど)は、中学校等と相談の上要検討。 ☆自主学習のやり方について、模範例をノートに貼る。 ☆家庭学習については保護者へ促し続ける。	○確かに家庭学習については、保護者の意識の問題もあると思う。やはり学校から促してもらえると有り難い。 ○自主学習の大切さについて、我が子には粘り強く説いていきたい。また、読書をもう少し推進してはどうか。国語だけでなく、算数や理科においても読解力は必須である。
IV 豊かな心の醸成に努める				
1 「道徳科」を要にした道徳教育の充実 ・道徳の時間の充実 ・授業公開と35(1年-34)時間実施	A	○年間指導計画にそって道徳の授業を進めることができた。 ○予定時数以上に道徳科の授業を実施することができた。 ○評価について、通信票記入を通して共通理解が図られた。	☆全体計画の見直し(全体・学年)	
② 自己理解(自尊感情)を深める指導の推進 ・ペア学年、縦割り班活動の充実 ・あいさつ・ありがとう運動の推進	A	○高学年が低学年の面倒をととてもよく見てくれて本当にありがたい。 ○異学年間のサポート体制ができており、あらゆる活動の場面で充実していた。 ○縦割り班活動に関しては様々な形で充実している。一方でペア学年の活動の充実に関する取り組みには課題が残る。 ○あいさつがとてもよくできている。「相手の目を見てあいさつ」ができていてすばらしい。 ○あいさつ・ありがとう運動はとても充実している。しかし個人となると課題が残る児童もいるのが現状。	☆6年生だけでなく5年生も協力して活躍の場を増やす。 ☆ありがとう運動は、人権担当が推進する。(別計画による) ☆「ほめほめの実」のようなものを学年ごとに行う。 ☆体力づくりやわくわくタイムでのペア学年活動を増やす。	○いいと思う。このまま進めてほしい。 ○学年を超えての「ありがとう運動」も大切だと思うが、学級内で一生懸命にやっていることを認められることは、友達に認められていると思いい、自尊感情も高まるし、もっとがんばってみようという向上心や相手に対してもよいところに目を向けられると思うので、学年ごとに実施してもよいのではないかと考えた。 ○あいさつ運動は、恥ずかしくて目を見られない子などがいると思うので、継続しながら子ども達同士で改善できるような取り組みを考えてみてはどうか。 ○東小の規模だから、きめ細やかな交流ができるのだと思う。学年を問わず、仲のいい学校生活が送れるといい。あいさつも運動の効果か、とてもよくできている。

<p>V 健やかな体の育成に努める</p> <p>① 教科体育・体育的活動の充実と共遊の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した体力づくり運動の実施 ・外遊びの奨励 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○業間に、その時期に合った体力作りが計画されている。 ○50m走チャレンジでは、運動委員を中心に計画的に実施することができた。校庭に出るきっかけになり、外遊びをする児童が増えたと思う。 ○業間の体力づくりは気候や日程によって柔軟に取り組めると良い。(周知も早めだと有り難い) ○いろいろな行事や児童の活動が業間にも入ってくるが多く、共遊や体力づくりの時間が確保されないうことがしばしば見られた。 ○外遊びで低学年児童が外に出ているときには、必ず支援員の先生がついていたのでとても安心できた。 ○暑い日などは、教室が涼しいから外には行かないという児童が高学年に見られた。 ○児童は、休み時間に外でよく遊んでいた。学年を越えて遊んでいる姿はほほえましくて良い。 ○多くの職員が外に出て、一緒に遊んだり、遊びの様子を見守ったりしているので安心できる。 	<p>☆「業間50m走チャレンジ」は、外へ出る機会をつくることをねらいとして、たくましく班(大野・岡・福田)と週番で行う。</p> <p>☆わくわくタイムは、月1回は仲良し班で遊ぶ機会をつくる。</p> <p>☆細かい時期を入れた年間の体力づくりの計画を作成し、教室に掲示できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の体調を見ながら進めてほしい。 ○50mが苦手な子には、違うチャレンジ(外で)もほしい。 ○学年を超えて遊ぶことは楽しいことのように、1年生の子ども達も喜んでいました。 ○暑い日については、体調が悪くないのなら、短時間なのでできれば外で遊んでもらいたいと思った。(無理強いはしたくないが…)週2～3日子ども達中心に何か遊びを決めて、外に出られるような状況を作ってみてはどうか。 ○休み時間に校庭でよく遊んでいるという話をよく聞く。いろんな競技にチャレンジし、いろんな体の使い方を学んでほしい。
<p>② 健康教育の充実と安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい姿勢の推進 ・歯磨き指導の教科・定着 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝の会に骨ピーン体操が位置づけられ、毎日の習慣としてとてもよいと感心した。 ○骨ピーン体操を継続することで、児童も姿勢に気を付ける意識が持っている。 ○姿勢が悪い児童がいるので、身体計測後の机・いすの適正配置、姿勢が悪い児童への個別指導ができると思う。 ○正しい姿勢の推進は今後も課題である。「ゲー・チョキ・パー・ピタ」の合言葉を使っている学年もあるが、使っていない学年もいるので、改めて指導の統一が必要である。 ○鉛筆の持ち方については、用具を使うことで、全員ではないが意識しているように見える。 ○給食後、教室の自席でCDに合わせて歯磨きをすることができた。 ○歯磨きに関して、養護教諭の声掛けや見回りがあり、子どもたちの意識も違うような気がします。 ○歯みがき指導は、学年が上がってもきちんと指導するべきだと思う。低学年が使う「歯みがきのうた」を使い、その通りに磨けばきちんと歯を磨けるので奨励したい。 ○歯みがきの時間を設けて実施しているが、きちんと磨いていない児童への個別指導が必要だと思う。 	<p>☆身体計測の結果に合わせて、机・椅子の調整をする。</p> <p>☆「ゲー・チョキ・パー・ピタ」の掲示物を教室に掲示する。</p> <p>☆歯みがきの時間は、学年の実情に合わせてCD、タイマーなど実施方法を選択できるようにする。</p> <p>☆姿勢については、担任からの日々の声かけが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年になるにつれて「ゲー・チョキ・パー・ピタ」を忘れてしまっているように感じる。 ○大変だと思うが、歯みがきの個別指導は必要だと思う。 ○家庭との連携も不可欠。